

一、学会活動

現代中国学会主催講演会

二月四日「魯迅『藤野先生』再読―日本留学の原点を見つめ直す」厳安生（北京日本学研究センター前主任）

二月九日「中国・村落民俗誌の現状と課題」葉濤（山東大学文史哲研究院教授）

二月二十二日「香港映画と香港文化」梁秉鈞（香港・嶺南大学教授）

二月二十九日「食から見た最新台湾事情」哈日杏子（漫画家・エッセイスト）

二、学会員活動

馬場 毅

「第五次開戦と国民政府の行政・治安組織の改革」（報告、愛知大学21世紀COEプログラム国際中国学研究所）  
「現代中国学の課題と展望」（一月二十四日）、  
「東亜同文書院有関人員对中国革命的支援―以孫中山和田山田兄弟の關係を中心」（霞山会主催、史実共同研究会、於上海交通大学、二月二日）

松岡正子

「改革開放後の人の移動と変化の諸相―四川省ナムイ・チベット族を事例として」（報告、愛知大学21世紀COEプログラム国際中国学研究所）  
「国際シンポジウム『現代中国学の課題と展望』」（一月二十四日）

## 愛知大学現代中国学部創設10周年

2007年、愛知大学現代中国学部は創設10周年を迎えた。現代中国学部は、世界でも初めての中国に関する専門的な教育と研究を行い、多くの分野で国際的に活躍する人材を育成することを目的とし、すでに1200人以上の卒業生を輩出している。

さる2月3日、現代中国学部創設10周年を記念して、本学車道校舎において記念講演会と同窓会発足式が行われた。記念講演会では「これからの日本と中国 現代中国学部の10年」を掲げ、本学部より加々美光行教授の「現代中国学部創設期の理念と格闘」、服部健治教授の「アメリカから見た日本と中国」があった。続いて、全日本学生中国語弁論大会第1位の伊藤えりさんが「為了活出個自己的樣子」、全日本中国語スピーチコンテスト全国大会第1位の伊藤佳壽子さんが「跳出排他性民族主義的圈子」と題する中国語スピーチを行い、満場の喝采を浴びた。そして、朝日新聞・テレビ朝日報道ステーションの加藤千洋氏が「21世紀の日中関係―若者に期待すること」と題して記念講演を行ったが、その中で、先の2人の学生のスピーチに賛辞を送った。記念講演会終了後、現代中国学部同窓会発足式が開かれ、多くのご来賓の挨拶をいただいた後、1期生の向川俊弘さんを会長とする同窓会が正式に発足した。

※学生の中国語スピーチ全文を次頁以下に掲載する。